

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671900284		
法人名	医療法人内田会		
事業所名	グループホーム虹		
所在地	徳島県三好市池田町中西フロノタニ1446番地2		
自己評価作成日	平成25年6月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成25年8月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念に、“利用者が安心して生活できるホームにすること”、“地域との関わりや付き合いを大切にすること”、“職員は利用者や家族との交流を大切にし、心の通ったホームづくりに努めること”の3項目を設定している。特徴としては関連施設に医療機関、老人保健施設とサービス付き高齢者住宅があり、利用者の希望、必要性に応じてサービスを受けることができる。また、利用者の状態の急変時や事故などに対して迅速で適切な対応がとれるメリットがある。次に取り組みとしては、地域との付き合いを重視する点から、ホームの行事などの際のボランティアの受け入れには積極的に取り組んでいる。また近隣の小学校とはホーム開設時からの付き合いが有り、定期的に交流を行うとともに、学校・地域の行事には入居者から積極的に参加している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では、利用者がゆったりと安心して生活することができるよう、つねに見守りを重視した支援に努めている。利用者同士の交流によって互いに励ましあったり、職員とともに事業所の垣根に植えている朝顔の水やりを楽しんだりしている。近隣の小学生や同業者との交流、家族会やボランティアの参加による納涼祭、地域行事への参加等に積極的に取り組んでいる。また、自主防災組織や地域の消防団等と密に連携を図り、災害対策に取り組んでいる。理念にそった、地域生活の継続支援を重視した心の通った事業所づくりに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			あい 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所では、“利用者が安心して生活できるホームにします。”“地域との関わりや付き合いを大切にします。”“職員は利用者や家族との交流を大切に、心の通ったホームづくりに努めています。”の3つの理念を作成し、職員間で共有して実践に努めている。	事業所は、利用者が安心して生活できるよう、本人や家族との交流を大切にし、地域のなかでの関わりや生活の継続支援を重視した心の通ったホームづくりに努めている。理念を職員間で共有し、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの行事等に地元のボランティアを積極的に受け入れている。また、お祭りや一斉清掃等にも積極的に参加している。	天気の良い日には、事業所周辺の散歩に出かけたり、理・美容院へ出かけたりしている。地域のお祭りや一斉清掃、学習会へ参加している。また、地元のボランティアの来訪等もあり、地域の人達とふれあう機会を多く設けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム便り等を通じて自分たちの経験を公開し、地域の高齢者の暮らしに役立つ情報を発信すべく努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、ホームで開催している。利用者や家族の意見、評価について話し合いを行い、それをホームのサービスの向上に活かしている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。家族会の代表者の参加も得ており、双方向的な話し合いとなるよう留意している。出された意見や提案等はサービスの質の向上に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等を通じて協力関係を築いている。	管理者は、必要に応じて市担当窓口へ出向き、利用者の暮らしぶりや事業所の取り組みを伝えている。市担当者や地域包括支援センターとの協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は今まで行ったことが無い。出来る限り行わないように努めている。また、止む無く行う事を想定してのマニュアルを作っている。	事業所では、身体拘束の廃止に関するマニュアルを作成している。また、勉強会を開催し、職員間で共通認識を図ることで、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待問題について真剣に学ぶ機会を作っている。実際の業務においても常に注意を怠らず防止に努めている。また、職員のストレス軽減にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			あい 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去において成年後見制度の利用の経験があり、その際に同制度について学ぶ機会がもてた。今後に活かしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭及び文書を通じて十分な説明を行い、疑問点を残さないように心掛けている。今までに理解不足からくるトラブルの記録は無い。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やその家族の意見に真剣に耳を傾けている。直接意見を聞く事の出来る機会として、運営推進会議や家族会は役に立っている。それらをいっそうのサービスの向上に活かしていきたい。	職員は、日ごろの利用者や家族との関わりを通じて、意見や要望を言ってもらえる雰囲気づくりに留意している。また、運営推進会議や家族会で出された家族の要望や意見は、管理者や職員間で話しあい、サービスの質の向上に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会等を通じて職員の意見を聞く機会を設けおり、それを運営に活かしている。	日ごろから、代表者や管理者は、職員との話しあいや定期的なミーティング、勉強会等で意見や提案を聞いて運営面へ反映している。代表者との話しあいの機会も多く設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の配置や勤務の評価は適切に行えている。また職員の意見に耳を傾け、やりがいや向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得や職能向上のための研修の機会は多い。また内部でも医師の指導の元での研修を行っている。職員の側も真剣に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や色々な会合、主治医の同業者への往診等を通じての交流の機会は多い。更に情報交換に努め、サービスの向上をはかっていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			あい 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に十分な説明を行っている。また入居後もコミュニケーションの機会を増やすように心掛けている。入居者の慣れない環境への適応を支援できている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に対しては入居前に口頭と文書で十分な説明を行っている。また、入居後もその意見を運営に活かせるように努め、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関連施設に医療機関と老人保健施設、サービス付高齢者住宅があり、相談者の状況によって適切などころに入居出来るよう努めている。またその他の施設の紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の人となりに興味を持って接している。その際に意外な発見等もあり、面白いと思っている。学ぶことも多い。また、入居者の能力を引き出すことで意欲を持って生活してもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族を支援すると同時に、その協力なしではホームの円滑な運営は難しい。協力して入居者を支えていける様、良好な関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が持ち込んできた馴染みの物は大切にしている。私物は出来るだけ持ち込んで日常的に使ってもらえるように努めている。また、電話なども気楽に使って頂いていると思う。	事業所では、行きつけの理・美容院や近隣の神社、商店等の馴染みの場所への外出を支援している。また、家族とともに外食へ出かけたり、家族等へ電話をかける支援を行ったりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係に常に気を使っている。必要に応じて職員が仲介等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			あい 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時において退去先への連絡等は文書や口頭で適切に行っている。また、その際の相談にも積極的に応じている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や入居者との対話を通じて、その希望の把握に努め、適切に対応している。関連医療機関以外の受診も希望に応じ適宜、行っている。	職員は、日ごろの利用者との暮らしのなかで一人ひとりの話を傾聴し、表情や些細な行動等から意向を把握するよう努めている。また、季節に応じて習字等を行って展示している。思いや意向の把握が困難な場合には、本人本位に検討し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時において生活暦の把握は正確に行っており、それをサービスの向上に活かしている。また入居後においてもその把握に努め適宜、見直しを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者、個々の状態を正確に把握し、記録している。それに基づいた対応も適切に行っている。また、職員間の連絡も正確に行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画には家族、本人、関係者、職員の意見を求め、それを計画に反映出来ている。また必要に応じて変更も適宜、行っている。	利用者や家族から出された要望を踏まえ、担当者や医師、看護師、理学療法士等と話し合いを重ねて介護計画を作成している。また、利用者の状況に応じて、そのつど介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の暮らしに関する、個別の記録をつくり、それを介護計画やサービスの向上に活かしている。情報共有のための話し合いも、定期的または、適宜に行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望や問題は様々であるが、それを理解しサービスに反映している。多機能性を活かし、柔軟な対応も出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			あい 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の状況に応じて、その生活の安定と拡がりの為、地域の諸施設からの協力を得られる様に理解の輪を拡げる働きかけを行っている。(商店、福祉施設、警察、消防、文化施設等)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の訴えに対して協力医療機関の支援が適切に行える様に連携が出来ている。月4回、定期的に往診をうけている。また、希望に応じてその他の医療機関を受診している人もいる。	事業所は、利用者や家族の希望する医療機関の受診を支援している。また、訪問診療を受けている利用者もあり、複数の医療機関との連携を図るなどして適切な医療の受診へと繋げている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康管理や医療行為に対する支援は適切に行えている。その際の介護職と看護職の連携も適切である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域の医療機関との連携は豊富である。入居者が安心して治療できる様、情報交換を密にし、適切に支援出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合に備えて家族、医師、職員間の話し合いは、早い時期より行っている。過去の事例、経験も豊富にあり、サービスの向上に活かしている。	早期段階から、利用者や家族、医師、職員間で重度化した場合のあり方について話しあっている。段階に応じて本人や家族の意志を確認し、チームで支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医師の指導のもとで、応急手当等の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や災害時に備えての訓練を行っている。その際の緊急連絡網も構築している。また、スプリンクラーと火災通報装置も設置済である。	災害対策マニュアルや緊急連絡網を作成し、年2回、日中と夜間を想定した避難訓練を実施している。また、自主防災組織や地域の消防団と協定書を交わし協力体制を構築している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			あい 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者のプライドやプライバシーに対しては十分な配慮を行っている。その為に必要な観察と考察も普段から行っている。	利用者の誇りやプライバシーに関する職員研修を実施している。利用者の居室に入室する際のノック等に留意している。個人情報については、責任ある取り扱いと管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	時間を掛けて対話を行っている。特に相手の話を聞くことに重点をおき、要求の把握に努め、出来る限りその意向を引き出している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活のペースに合わせていく方針である。制約は有るが出来る限り、それを尊重していきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容と美容はホームで行う他、それぞれの希望の店に行く人も多い。希望に最大限、配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の量や硬さは本人の好みに配慮している。好き嫌いにも出来る限り配慮している。また、食事の準備や後片付けも自然な形で手伝ってもらっている。	管理栄養士が作成した献立表を参考にしつつ、利用者の好みを聞いてメニューを作成している。また、咀嚼や嚥下状態に応じ調理方法を工夫している。利用者は、食事の準備や後片づけなどの役割を担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量を主食と副食に分けて、入居者ごとに毎食分かり易く記録している。また水分の摂取量も同様に記録して、健康管理に役立てている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後に行っている。その際には口腔内の様子や、食べ物が残っていないか等のチェックも忘れない様に注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			あい 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツや紙パンツの使用は極力減らすように努力している。入居者の特徴に応じて、適宜トイレへの誘導やポータブルトイレの使用を行っている。	利用者の排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握している。職員は、排泄のサインを見逃さないよう努め、声かけやトイレ誘導を行うことで排泄の自立へと繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食生活や水分摂取に注意して便秘の防止に気をつけているが適宜、下剤の投与もやっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間と曜日はホームの都合で決めさせて頂いている。現状では止むを得ないと思う。ただし、汚染等があった場合は適宜、入浴を行っている。	利用者と家族へ入浴の曜日や時間帯の説明を行っている。利用者の希望や状況に応じて入浴することのできる体制を構築している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の部屋は、落ち着いて過ごしてもらえる様に、好みや習慣に応じて生活用品等を揃えている。また、季節に応じて快適に入眠が出来るように室温や衣類、寝具等を調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者が服用している薬に関しては、その効用と副作用を書いたファイルを用意し職員皆が理解出来る様にしている。またファイルの内容も服薬の変化に応じて更新している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者の生活歴や好み、習慣等を把握している。それを基に各入居者に役割や趣味を楽しんでもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所への散歩は日常的に行っている。また、車を使って遠出の機会も出来る限りつくっている。個別の対応にさらに努めたい。	天候や体調に配慮しつつ、近隣の散歩や商店への買い物、ドライブ、外食に出かけている。また、家族とともに墓参りに行ったり、定期的に外泊を楽しんだりする利用者もおり、一人ひとりの希望に応じた支援に努めている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			あい 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて、買い物等の金銭を遣う機会を増やせる様、努力している。また金銭管理の困難な人に対しても、出来る限り買い物の機会をもって頂ける様、配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎは適切に行えている。本人の希望に応じて、家族との会話を楽しんでもらっている。手紙に関しても最大限、プライバシーに配慮しながら支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れる為、飾りつけ等を工夫している。また、適切に温度と湿度の管理をしている。音や光に関しても、入居者の希望に沿える様、配慮している。	共用空間は広くゆったりとした造りとなっている。テーブルに季節の生花を飾ったり、壁面に習字等を掲示したりしている。窓からは、豊かな自然を眺めることができる。利用者と職員は、事業所の周りに植えた朝顔に水やりをしながら、花の数を数えるのが楽しみとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	トイレの使用時や入浴時のプライバシーには十分に配慮している。ホールや各自の居室で気の合った入居者同士で楽しく談笑して頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の雰囲気や生活用品は本人や家族の意見を取り入れ、快適に過ごしてもらえる様に配慮している。本人の愛用品や生活習慣を最大限、尊重している。	利用者は居室に、愛用品の時計や趣味の道具を持ち込んでいる。また、家族の写真等を飾るなどして、一人ひとりが居心地良く落ち着いて過ごすことができるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールや居室内の障害物は気を付けて撤去している。入居者の活動を妨げない様にしており、出来る限りの自立した生活を送って頂いている。また分かり易さにも配慮している。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			すだち 実践状況	実践状況	実践状況
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所では、“利用者が安心して生活できるホームにします。”“地域との関わりや付き合いを大切にします。”“職員は利用者や家族との交流を大切にし、心の通ったホームづくりに努めています。”の3つの理念を作成し、職員間で共有して実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの行事等に地元のボランティアを積極的に受け入れている。また、お祭りや一斉清掃等にも積極的に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム便り等を通じて自分たちの経験を公開し、地域の高齢者の暮らしに役立つ情報を発信すべく努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、ホームで開催している。利用者や家族の意見、評価について話し合いを行い、それをホームのサービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等を通じて協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は今まで行ったことが無い。出来る限り行わないように努めている。また、止む無く行う事を想定してのマニュアルを作っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待問題について真剣に学ぶ機会を作っている。実際の業務においても常に注意を怠らず防止に努めている。また、職員のストレス軽減にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			すだち 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去において成年後見制度の利用の経験があり、その際に同制度について学ぶ機会がもてた。今後活かしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭及び文書を通じて十分な説明を行い、疑問点を残さないように心掛けている。今までに理解不足からくるトラブルの記録は無い。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やその家族の意見に真剣に耳を傾けている。直接意見を聞く事の出来る機会として、運営推進会議や家族会は役に立っている。それらをいっそうのサービスの向上に活かしていきたい。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会等を通じて職員の意見を聞く機会を設けおり、それを運営に活かしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の配置や勤務の評価は適切に行えている。また職員の意見に耳を傾け、やりがいや向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得や職能向上のための研修の機会は多い。また内部でも医師の指導の元での研修を行っている。職員の側も真剣に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や色々な会合、主治医の同業者への往診等を通じての交流の機会は多い。更に情報交換に努め、サービスの向上をはかっていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			すだち 実践状況	実践状況	実践状況
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に十分な説明を行っている。また入居後もコミュニケーションの機会を増やすように心掛けている。入居者の慣れない環境への適応を支援できている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に対しては入居前に口頭と文書で十分な説明を行っている。また、入居後もその意見を運営に活かせるように努め、信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	関連施設に医療機関と老人保健施設、サービス付高齢者住宅があり、相談者の状況によって適切などころに入居出来るよう努めている。またその他の施設の紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の人となりに興味を持って接している。その際に意外な発見等もあり、面白いと思っている。学ぶことも多い。また、入居者の能力を引き出すことで意欲を持って生活してもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族を支援すると同時に、その協力なしではホームの円滑な運営は難しい。協力して入居者を支えていける様、良好な関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が持ち込んできた馴染みの物は大切にしている。私物は出来るだけ持ち込んで日常的に使ってもらえるように努めている。また、電話なども気楽に使って頂いていると思う。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の人間関係に常に気を使っている。必要に応じて職員が仲介等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			すだち 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時において退去先への連絡等は文書や口頭で適切に行っている。また、その際の相談にも積極的に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や入居者との対話を通じて、その希望の把握に努め、適切に対応している。関連医療機関以外の受診も希望に応じ適宜、行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時において生活歴の把握は正確に行っており、それをサービスの向上に活かしている。また入居後においてもその把握に努め適宜、見直しを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者、個々の状態を正確に把握し、記録している。それに基づいた対応も適切に行っている。また、職員間の連絡も正確に行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画には家族、本人、関係者、職員の意見を求め、それを計画に反映出来ている。また必要に応じて変更も適宜、行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の暮らしに関する、個別の記録をつくり、それを介護計画やサービスの向上に活かしている。情報共有のための話し合いも、定期的または、適宜に行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望や問題は様々であるが、それを理解しサービスに反映している。多機能性を活かし、柔軟な対応も出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			すだち 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者の状況に応じて、その生活の安定と拡がりの為、地域の諸施設からの協力を得られる様に理解の輪を拡げる働きかけを行っている。(商店、福祉施設、警察、消防、文化施設等)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の訴えに対して協力医療機関の支援が適切に行える様に連携が出来ている。月4回、定期的に往診をうけている。また、希望に応じてその他の医療機関を受診している人もいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康管理や医療行為に対する支援は適切に行えている。その際の介護職と看護職の連携も適切である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域の医療機関との連携は豊富である。入居者が安心して治療できる様、情報交換を密にし、適切に支援出来ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合に備えて家族、医師、職員間の話し合いは、早い時期より行っている。過去の事例、経験も豊富にあり、サービスの向上に活かしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医師の指導のもとで、応急手当等の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や災害時に備えての訓練を行っている。その際の緊急連絡網も構築している。また、スプリンクラーと火災通報装置も設置済である。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			すだち 実践状況	実践状況	実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者のプライドやプライバシーに対しては十分な配慮を行っている。その為に必要な観察と考察も普段から行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	時間を掛けて対話を行っている。特に相手の話を聞くことに重点をおき、要求の把握に努め、出来る限りその意向を引き出している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活のペースに合わせていく方針である。制約は有るが出来る限り、それを尊重していきたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容と美容はホームで行う他、それぞれの希望の店に行く人も多い。希望に最大限、配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の量や硬さは本人の好みに配慮している。好き嫌いにも出来る限り配慮している。また、食事の準備や後片付けも自然な形で手伝ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量を主食と副食に分けて、入居者ごとに毎食分かり易く記録している。また水分の摂取量も同様に記録して、健康管理に役立てている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後に行っている。その際には口腔内の様子や、食べ物が残っていないか等のチェックも忘れない様に注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			すだち 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツや紙パンツの使用は極力減らすように努力している。入居者の特徴に応じて、適宜トイレへの誘導やポータブルトイレの使用を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食生活や水分摂取に注意して便秘の防止に気をつけているが適宜、下剤の投与も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間と曜日はホームの都合で決めさせて頂いている。現状では止むを得ないと思う。ただし、汚染等があった場合は適宜、入浴を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の部屋は、落ち着いて過ごしてもらえる様に、好みや習慣に応じて生活用品等を揃えている。また、季節に応じて快適に入眠が出来るように室温や衣類、寝具等を調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者が服用している薬に関しては、その効用と副作用を書いたファイルを用意し職員皆が理解出来る様にしている。またファイルの内容も服薬の変化に応じて更新している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者の生活歴や好み、習慣等を把握している。それを基に各入居者に役割や趣味を楽しんでもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所への散歩は日常的に行っている。また、車を使って遠出の機会も出来る限りつくっている。個別の対応にさらに努めたい。		



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			すだち 実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じて、買い物等の金銭を遣う機会を増やせる様、努力している。また金銭管理の困難な人に対しても、出来る限り買い物の機会をもって頂ける様、配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎは適切に行えている。本人の希望に応じて、家族との会話を楽しんでもらっている。手紙についても最大限、プライバシーに配慮しながら支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れる為、飾りつけ等を工夫している。また、適切に温度と湿度の管理をしている。音や光に関しても、入居者の希望に沿える様、配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	トイレの使用時や入浴時のプライバシーには十分に配慮している。ホールや各自の居室で気の合った入居者同士で楽しく談笑して頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の雰囲気や生活用品は本人や家族の意見を取り入れ、快適に過ごしてもらえる様に配慮している。本人の愛用品や生活習慣を最大限、尊重している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールや居室内の障害物は気を付けて撤去している。入居者の活動を妨げない様にしており、出来る限りの自立した生活を送って頂いている。また分かり易さにも配慮している。		